

「民族差別と闘う連絡協議会（民闘連）」の歴史

飛田雄一 hida@ksyc.jp

● 1 はじめに

「民族差別と闘う連絡協議会」在日コリアン辞典より

「民闘連（民族差別と闘う連絡協議会）朴鐘碩*の日立就職差別を糾す運動にかかわった人々によって1974年に結成された協議会。発足時の代表は李仁夏*と佐藤勝巳*、事務局長は裴重慶。民闘連*には、①在日韓国・朝鮮人の生活現実を踏まえて民族差別*と闘う実践をする、②在日韓国・朝鮮人の民族差別と闘う各地の実践を強化するために交流の場を保障する、③在日韓国・朝鮮人と日本人が共闘していくことという「三原則」があり、会員、会費などではなく、年に一度自主的な地域活動の実践を持ち寄る全国交流集会を開催した。1975年に第1回全国交流集会が開催された。主な活動地域は、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、岡山、広島、福岡などであった。在日のメンバーは2世世代が中心であった。反差別・権利獲得運動を課題とし、地域活動を基盤としつつアイデンティティ*の確立をめざすものであった。1970年代には公営住宅*、児童手当等を要求する運動を展開する。1980年代の指紋押捺撤廃、戦後補償を求める運動にも積極的な役割をはたした。その後も、定住外国人*の地方参政権、公務員の国籍条項*撤廃などを要求する運動で先導的な役割を果たす。1988年には「在日旧植民地出身者に関する戦後補償および人権保障法案」を発表し、その実現のための運動を展開した。1990年神戸大会における大沼保昭*の問題提起を契機として、民団・総連と異なる在日の第3の民族運動団体をつくろうというグループと日本人と在日との共闘を追求しようというグループの間に意見の相違が生まれた。その後も民闘連の流れをくむいくつかのグループが個々に活動を継続している。編著に『在日韓国・朝鮮人の補償・人権法』(1989、新幹社*)がある。 [飛田雄一]」

● 2 <参考文献>

1. 加藤恵美「在日コリアンをめぐる歴史問題と和解—「民族差別と闘う連絡協議会」の運動と「在日旧植民地出身者に関する戦後補償及び人権保障法草案」の検討—」(『和解学叢書4 = 市民運動 和解をめぐる市民運動の取り組み—その意義と課題』明石書店、2022年3月)【文献①】
2. 加藤恵美「民族差別と闘う新しい社会運動の創発—1970年代の民闘連の研究」(国際高麗学会日本支部『コリアン・スタディーズ』13号、2025年6月)【文献②】
3. 兵庫在日外国人人権協会『民族差別と排外に抗して—在日韓国・朝鮮人差別撤廃運動 1975-2015』(2015年8月)【文献③】
4. 民族差別と闘う連絡協議会 編『在日韓国・朝鮮人の補償・人権法：在日旧植民地出身者に関する戦後補償および人権保障法制定をめざして』(新幹社、1989年)【文献④】
5. 民闘連ニュース、六甲アーカイブ、<https://ksyc.jp/rokko-archive/> 【文献⑤】

● 3 いくつかのことがら

1. 「朴君を囲む会」から民闘連へ

KCCJ は宣教 60 周年を記念して「キリストに従ってこの世へ」(1968 年) という標語を立てた。李仁夏氏は、60

周年記念事業の準備委員をつとめ、その標語にそれまでのKCCJの「教会としての働き」に対する「神学的反省」を投影した〔李清一 2008: 209〕。この「神学的反省」のもとになったのは、アメリカでの公民権運動やアフリカ南部の反アパルトヘイト運動に参与した世界の諸教会の神学的潮流—教会は、個人的な「病と悪い」に寄り添うだけでなく社会・国家の「病と悪い」たる「構造悪」から個人を自由にする役割を担うという考え方—であった〔在日大韓基督教会川崎教会 1997: 60-62〕。

しかし、裁判運動当時のKCCJ内でこうした「反省」は主流になってはいなかった。それは、1971年当時KCCJの青年会全国協議会の代表委員であった崔氏が、裁判運動を全国の教会に広げようとして解任された〔在日大韓基督教会川崎教会 1997: 65〕ことに表れた。「日立就職差別裁判は日本社会に逃げ込もうとする同胞の同化現象をさらに推し進めるものだと断定され」、「私は民族反逆者、同化論者のラク印を押され」たと崔氏はこの出来事を振り返っている〔崔 2020: 37-38〕。それでも李仁夏氏は、「呼びかけ人」として裁判運動を支え続けた。

〔文献②〕加藤恵美『コリアン・スタディーズ』13号、2025年6月より

【「朴君を囲む会」から民闘連へ】

- ・1974.09.01、日立糾弾闘争勝利集会（東京全電通会館）→民闘連の設立を提起
 - ・1974.09.03、朴鐘碩が日立製作所ソフトウェア横浜市戸塚工場に出社
 - ・1974.10.19、「朴君を囲む会」解散を宣言し、民闘連結成に向けた討論集会
 - ・1974.11.04、第1回民闘連全国代表者会議、川崎にて
- （仲原良二）〔文献③〕『民族差別と排外に抗して』より

2. 全国交流集会の開催、梁泰昊の日本国籍論？1981年？

3. 補償人権法の提案、そのための議論

次は、岡山の金山という山の中ですが、そこで集会をしたときに、「補償・人権法素案」は正式には「在日旧植民地出身者に関する戦後保障および人権保障法」です。岡山大会で素案を発表するんです。一番終わりのところで、「帰化」の問題ですが、日本籍は無条件に与えるべきだということを入れたんです。そうすると、それは「同化」ではないかという批判が出たんです。それで、結局その項目を引っ込んだものを提出しました。1988年10月の全国代表者会議で完成させ出版されることになります。

まず戦後補償の中で、関東大震災での朝鮮人虐殺、原爆被害者などすべてが含まれ、個人補償、企業の補償、政府の補償に分けて書いています。執筆したのは裴重慶、田中宏、梁泰昊、徐正禹です。参政権の資料などは私が書いています。議論に議論を重ねて作ったものです。今でも、これがこの議論のガイドラインになっていると思います。

〔文献③〕『民族差別と排外に抗して』所収、仲原良二講演より

4. 神戸交流集会（16回、1990年）での大沼保昭の提案？？

5. 「組織改編」後の動き

計5回の組織改革委員会が開催されたが、1992年7月7日の神戸（兵庫）開催前の6月29日に兵庫民闘連の重鎮である梁泰昊が辞任するという異変が起こり、亀裂が生じて行った。第5回組織改革委員会（1992.10.06）において、綱領、規約が討議され、これを第18回全国交流集会（1993.02.13-14、高槻）で承認される。

1995年10月1日開催の第132回民闘連全国代表者会議が開催されたあと、10月15日に開催予定だった第17回民闘連全国交流大阪集会（解散集会）前の10月9日に裴重慶会長が辞任、高槻むくげの会代表の李敬宰が辞任するという異常事態となった。

その後は、朝鮮人組織と日本人組織の分離が議論され、韓国・朝鮮人は「在日コリアン人権協会」、日本人は「多文化共生フォーラム」に組織変更するため、全国民闘連の解散をはかった。神奈川民闘連は全国民闘連の解散の延期を提案していたが、1995年の第21回大阪集会は解散集会となった。

残念ながら、民族差別と闘う連絡協議会全国交流集会は、1975年8月30日～31日の第1回大阪大会～1995年10月15日の第21回大阪大会(解散集会)で終わることになってしまった。

兵庫民闘連は、1997年1月に名称を「在日コリアン人権協会・兵庫」に変え独立した組織として再出発する。その後、2002年1月に現在の「兵庫在日外国人人権協会」に名称変更し、現在に至る。

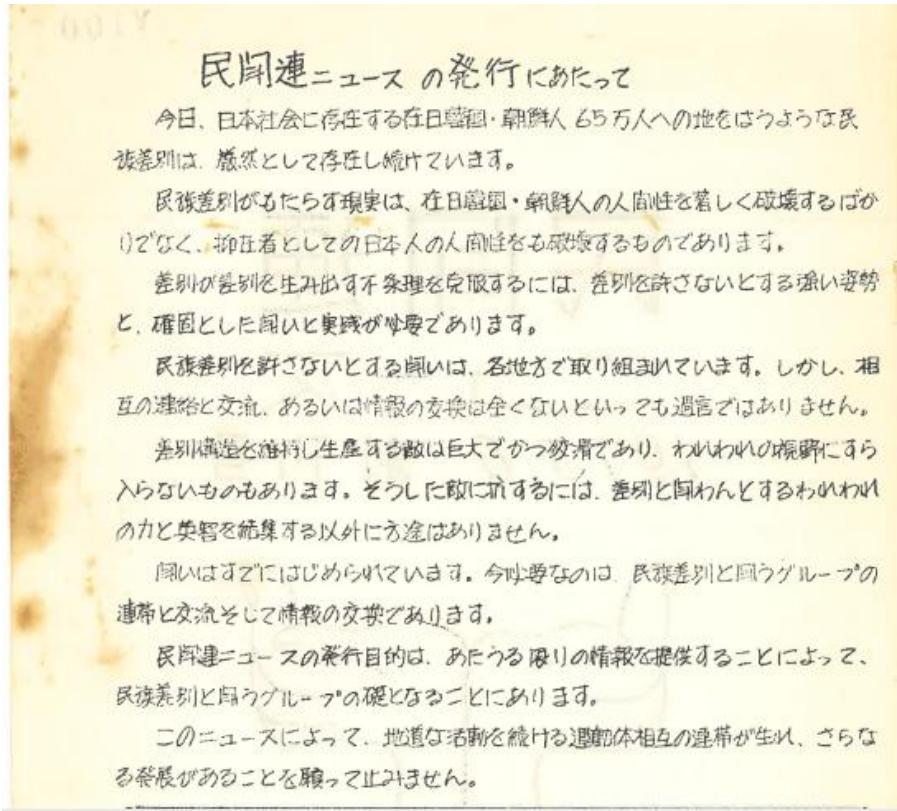
(孫敏男) 【文献③】『民族差別と排外に抗して』より

表1 全国交流集会のテーマなど(1975年から1997年)

民闘連全国交流集会				
年	回数	集会テーマ	開催地	記念講演者と講演タイトル
1975	第1回	民族差別撤廃の全国闘争をめざして	大阪	—
1976	第2回	「民闘連運動」をめざして連帯強化を確認する	川崎	—
1977	第3回	在日韓国・朝鮮人の民族主体性と日本人の共闘について	尼崎	—
1978	第4回	民族差別との闘いに向けての在日韓国・朝鮮人と日本人の共闘	名古屋	金時鐘(詩人)、タイトル明示なし
1979	第5回	民族差別と闘う実践を深め闘う仲間の輪をひろげよう	川崎	李進熙(歴史家、明治大学講師)、タイトル明示なし
1980	第6回	生活に根ざした地域の闘いを結集しよう！！	八尾	李仁夏(在日大韓基督教川崎教会牧師)、タイトル明示なし
1981	第7回	在日韓国・朝鮮人教師の実現をめざそう！今、在日韓国・朝鮮人はどう生きるか！	名古屋	—
1982	第8回	ともに生き、ともに闘う新たな展望をきりひらこう	尼崎	日高六郎(京都精華大学教授)、タイトル明示なし
1983	第9回	いきいきとした民族意識をうちたて生活権を拡充しよう	大阪	金石範(作家)「在日の思想」
1984	第10回	民族差別との闘いの原点にたちかえる 民闘連の10年をふりかえり、新たな歩みを展望する	東京	—
1985	第11回	すべての力を結集し民族差別をうち碎こう	高槻	徐龍達(桃山学院大学教授)「定住外国人の人権闘争」
1986	第12回	地域の中に共に生き共に闘う輪を広げよう	三重	金東勲(龍谷大学教授)「国際人権法から見た定住外国人の人権」
1987	第13回	在日韓国・朝鮮人に対する民族差別と闘い共に生きる社会をつくろう！！	岡山	田中宏(愛知県立大学教授)「定住外国人の人権」
1988	第14回	定住外国人に関する基本法制定をめざして	大阪	—
1989	第15回	旧植民地出身者に関する戦後補償および人権保障法制定をめざして	川崎	田中宏(愛知県立大学教授)「在日韓国・朝鮮人の戦後補償」、金東勲(龍谷大学教授)「在日韓国・朝鮮人の人権保障」
1990	第16回	在日3世の民闘連運動と補償・人権法	神戸	大沼保昭(東京大学法学部教授)「在日韓国・朝鮮人の未来をどう考えるのか」

【文献②】加藤恵美『コリアン・スタディーズ』13号、2025年6月より

●4 民闘連ニュースバックナンバーを「六甲アーカイブ」にはりつけました。一部、大阪民闘連ニュースをまちがってはってある号があります。以下、飛田メモ。



民闘連ニュース1号

- 1号、1975年6月、尼崎の交渉、3頁、手書き
- 2号、1975年7月、日立判決から1年、韓敏央さん一家、タイプ印刷
- 3号、1975年8月、労働行政研究所糾弾、京都韓国学園、
- 4／5合併号、第1回全国交流集会、芦原橋解放会館
- 6号、竹村論文批判（金成元）、孫振斗を大村収容所からだそう（大阪市民の会）
- 7号、1976年1月、「お返し？」（朴聖圭＝梁泰昊）
- 9号、76年3月、申京煥特集（有吉克彦、申京煥）
- 11号、76年5月、KCC李恩子（李銀子？）
- 12号、76年6月、張鮮仁（裴重慶）の文章

「ちょうど、1年前の今日、2024年11月23日に裴重慶さんが亡くなられました。人権協会ニュースの今年2月号に孫敏男さんが追悼文を書き、その下に、添付の、張鮮仁のことを書きました。裴さんから聞いたのは人権協会の40周年の時です。」藤川正夫さんからのメール、2025年11月25日。

「『張鮮仁』とは誰のことか？／50年前のことだ。藤原史朗さん、神谷重章さん、小西和治さんについても分からぬ。仲原良二さんもご存じでなかった。誰に聞いても、分からなかった。「えへへ、それは私や」と、裴重慶さんは答えられた。」（兵庫在日外国人人権協会ニュース、2025年2月第125号）

●連載論壇●

在日朝鮮人の解放に向けて（5）
「兵庫県進指研ニュース」への反論張 鮮仁
チャン ソンイム

兵庫県放教育研究会に連なる教師の、在日韓国人に対する教育実践、あるいは進路保障への取り組みは、その実践力と在日韓国人の生活の現実に密着しているという事において自分なりにたかく評価している。

しかし、民闘連ニュース11号に転載された一兵庫県進指研ニュース「新しい出立のため」の「在日朝鮮人生徒の公務員への就職」を読み、私は多少のにがからい想いとともに

「まえがき」を、少しながいが引用してみた。

「在日朝鮮人生徒を公務員として送り込んだ阪神間の高校では、いま、彼らをすみやかに引きとり、積極的に転職をすめていく方向で、当該生徒たちとの話し合いが続けられている。在日外国人の門戸を開設し、地方公務員として受け入れてきた側の自治体の、民族問題に対する理解がまったくないことがそ

- 15号、1989年5月?、大阪民闘連ニュース
- 16号、大阪民闘連ニュース?
- 17号、1977年1月、全国民闘連ニュースに、
- 19号、1977年3月、「問題は山積みしている」(飛田)
- 27号、1978年1月、帰化統計等(金英達)、他に金英達が文献紹介
- 38号、1989年3月、ニュース再刊によせて(李仁夏)、「明日」のための「戦後補償」(梁泰昊)
- 42号、1990年2月、飛田、補償人権法シンポジウム分科会報告
- 47号、1990年8月、朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会の記事も
- 51号、1991年1月、第16回民闘連兵庫大会、徐根植、金英達もレポート
- 55号、1991年5月、特集「差別語」、梁泰昊、佐野通夫もレポート
- 60号、1991年10月、神戸YWCA、学生センター、元「慰安婦」証言集会案内も
- 61号、1991年11月、全国研究集会(大阪府労)、法的地位報告分科会(金英達)
- 66号、1992年5月、障害年金交渉、慎英弘報告
- 68号、1992年7月、民闘連運動20年シンポジウム、文公輝ほか
- 92号、1994年9月、「民闘連・KMJ研究センター東京事務所開設の集い」
- 99号、1995年5月、地方参政権シンポジウム報告ほか
- 100号、1995年6月、第5回未来と人権研究集会(東京、1995.11.10-11)
- 102号、1995年8月、「新組織への改変をめざして」(1990.11、第16回大会(兵庫)の講師欠席等のこと)
- 103号、1995年9月、「在日コリアン人権協会(仮称)設立にむけて」

● 5 まとめ

1. 「民闘連」記録整理すべき時期に来た。
2. その後の分裂により全体的な記述がむつかしい面がある。
3. 1970年代の在日コリアンをめぐる特出した運動であったことは、事実。
4. 【文献③】は兵庫の記録だが、全国民闘連運動の記録としても貴重。
5. 六甲アーカイブ、民闘連ニュースが今後の研究に役立つ。
6. 体験者の聞き取りも、もうできない??
7. 加藤恵美さん以外にも、研究論文がでできそう。

そのほか、参考に・・・。

1. 飛田コロナエッセイ、コリアンをめぐる市民運動、<https://ksyc.jp/mukuge/hida-corona3.pdf>
2. 飛田＜多文化共生の「共生」は、梁泰昊が初めて使った>説 むくげ通信328号(2025年1月26日) <https://ksyc.jp/mukuge/328/hida-yanteho.pdf>